

【学力向上フロンティアスクールにおける中間報告書】(小学校)

都道府県名	富山県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	射水郡小杉町立歌の森小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	18
児童数	61	61	62	60	63	58	1	366	

研究の概要

1. 研究主題

自ら課題をもち、主体的に学ぶ子どもの育成
— 学びの創造を旨として —

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 3年、4年、5年、6年・算数
児童の理解の程度に差が出やすい教科、学年であるため。
- ・ 3年、4年、5年、6年・国語
教科に関する基礎・基本の定着を図るため。
- ・ 1年、2年、3年・国語
実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度

テーマ
自ら課題をもち、主体的に学ぶ子どもの育成を
— 学びの習慣化 —

研究の見通し(仮説)
一人一人のよさや可能性が発揮できる教材の開発と学習過程の工夫
個に応じた指導のための指導方法と指導体制の工夫改善
評価を生かした指導の改善

研究の内容・方法
< 研究内容 >
ア年間指導計画の見直し
イ授業改善(基礎学力の向上、スキルタイムの充実、基礎・基本の定着、教材やテーマの開発、少人数指導・習熟度別学習のあり方、体験的・問題解決的な学習の推進、ノート指導の充実、評価方法の工夫等)
ウ家庭・地域との連携

< 方法 >
・ 授業実践を通して仮説の検証
・ 学習の足跡や研究成果の掲示・管理及びホームページの作成・管理
・ 諸実践の記録の累積及び文献・校外研修による情報収集

平成15年度

テーマ
自ら課題をもち、主体的に学ぶ子どもの育成
— 学びの創造を旨として —

研究の見通し(仮説)
一人一人の学び方に応える教材の開発と学習過程の工夫
個に応じた指導や他とのかかわりが有効に働く指導方法と指導体制の工夫改善

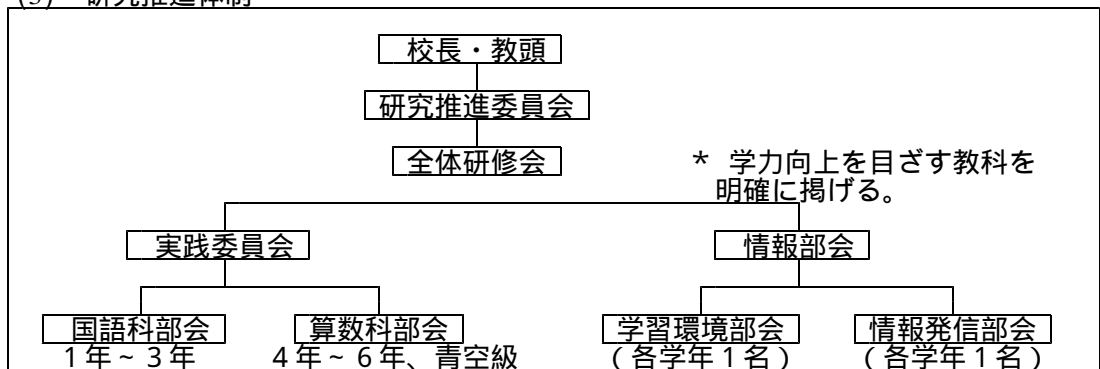
* 個と集団のかかわりという視点で一人学びで深め、学び合いで知恵を出し合う学習の構築を旨とするために変更
評価を生かした指導の改善

研究の内容・方法
< 研究内容 >
ア年間指導計画の見直し
イ授業改善(基礎学力の定着を旨とするスキルタイムの充実及びスキル教材の開発、発展・補足的な学習のための教材の開発、少人数指導・習熟度別学習のあり方、体験的・問題解決的な学習の推進、ノート指導の充実、指導形態の工夫、評価方法の工夫等)
* 基礎・基本の徹底と個に応じた指導に着目し、きめ細かな支援や自立的な追求を促す教材や指導の改善を図るために変更
ウ家庭・地域との連携

< 方法 >
・ 授業実践を通して仮説の検証
・ 学習の足跡や研究成果の掲示・管理及びホームページの作成・管理
・ 諸実践の記録の累積及び文献・校外研修による情報収集

平成16年度	<p>テーマ 自ら課題をもち、主体的に学ぶ子どもの育成 —— 学びの生活化 —— 研究の見通し（仮説） 一人一人の学び方に応える教材の開発と学習過程の工夫 個に応じた指導や他とのかわりが有効に働く指導方法と指導体制の工夫 改善 評価を生かした指導の改善 研究の内容・方法</p> <p>< 研究内容 > ア年間指導計画の見直し イ授業改善（基礎学力の定着を旨とするスキルタイムの改善及びスキル教材の開発、発展・補足的な学習のための教材の開発、少人数指導・習熟度別学習の指導過程の工夫及び指導の改善、ノート指導の徹底、指導形態の工夫、評価方法の工夫等）</p> <p>ウ家庭・地域との連携</p> <p>< 方法 > ・授業実践を通して仮説の検証 ・学習の足跡や研究成果の掲示・管理及びホームページの作成・管理 ・諸実践の記録の累積及び文献・校外研修による情報収集</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

本年度の研究

< 児童の実態 学力調査（15年度の結果より） >

教科	3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
本校平均	83.8	81.8	73.5	76.4	67.8	69.1	79.1	78.3
県平均との差	+2.5	+3.8	+4.1	+2.5	-0.4	+1.8	+0.4	+2.0

< 基礎学力の定着を旨として >

- ・スキルタイムの充実
- ・百ます計算〔かけ算〕に要する時間（4年3分以内達成者）
学期末 29名 / 59名（49%）3学期1月末 47名 / 59名（80%）
- ・たし算（2）50題（1年3分以内達成者）11月上旬 21% 12月上旬 73%
- ・スキル教材の開発
- ・国語3年（話す・聞くのスキル）会話から正しく内容を聞き取る「言葉のキャッチボール」

5年（話すスキル）「いろいろな詩の表現に親しむ・声を出して読もう」

スキルタイムの成果

- ・文字の読み取りや、書き取りが早くなり、正確さが増してきた。
- ・漢字の自主練習に励む児童が増えた。
- ・計算の速度が速くなり、正確さが増した児童が増えた。
- < 発展・補足的な学習のための教材の開発 >
- ・わり算の自作教材やビデオ作成（4年）・比のチャレンジタイム（6年）
- ・一人一人の学び方に応える教材の開発
- ・面積の求め方を考えよう（5年）において、表現方法を鍛える説明博士を作成し一人一人の学びに応じた教材になるように工夫する。

< 習熟度別学習（少人数指導）における意識調査 >

- ・自分にあった速さで勉強できる。
- ・勉強がはかどり、楽しい。
- ・先生の話がしっかり聞けるし、分からないところが聞きやすい。

< 評価方法の工夫 >

- ・自己評価カードを作成し、また継続的に児童の理解の程度を把握するためにカードの見直しや手直しを加える。
- ・誤答分析表で自分の間違いやすい所に気づき、見直しに役立て正確さを付ける。

2. 今後の課題

- ・ 既習事項を把握した教材の仕組み方と指導過程の工夫
- ・ 教師間相互の交流が生きる有効な評価方法についての検討
- ・ 発展的・補足的な学習の教材開発と各コースに応じた指導の改善や学習教具の作成
- ・ スキルタイムの改善（日課表での位置づけ、表現力を高めるスキル内容の工夫）

学力等把握のための学校としての取組

- ・ 学力調査の実施（年度初め 1 回）
- ・ チャレンジテスト（2 学期末、3 学期末）
- ・ スキルタイムによって計算力の正確さ、速さを記録する。（毎学期の積み上げによる児童の処理技能の伸びを確認）
- ・ 単元別テスト（同テストで1 か月おきに繰り返しテスト）を実施し、評価項目別平均値の向上を図る。
- ・ C R T（標準学力調査）を実施（3 学期1 月末）し、学習状況の確認と客観的な総合的評価に役立てる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定（日時、場所、対象、会の目的等）
- < 2 年次 >
- 5 月上旬 「少人数指導・習熟度別学習の取り組みについて」3 年以上の保護者対象にアンケート
- 6 月 4 日 一日自由参観（少人数指導 3 ～ 6 年算数）対象：保護者
- 6 月 2 7 日 校内授業研究会 第 4 学年算数 少人数指導による授業
指導助言者・講師 東京学芸大学 児島 邦宏教授
- 7 月上旬 「少人数指導・習熟度別学習（実施状況）について」3 年以上の児童対象にアンケート
- 1 1 月 4 日 学力向上フロンティアスクールとしての公開授業研究会
第 1 学年国語
第 5 学年算数（少人数指導）
研究経過報告、全体協議会
指導助言者 氷見市立加納小学校 長井 睦美 教頭
高岡教育事務所 鎌仲 徹也 指導主事
対象：射水郡内小中学校、高岡地区フロンティア校、その他県内フロンティア校
- 2 月下旬 「少人数指導・習熟度別学習（実施後）について」3 年以上の児童対象にアンケート
- 3 月中旬 C R T（標準学力調査）の結果の報告 保護者向け便りを配布
- < 3 年次 >
- 1 0 月 1 日 学力向上フロンティアスクールとしての公開授業研究会
指導助言者・講師 東京学芸大学 児島 邦宏教授
地域や他のフロンティア校へ発信
- * 研究成果普及のための H P 作成、パンフレット作成等の実績（学校としての創意工夫を含む）及び今後の予定
- ・ 学校の概要、学年の活動、フロンティアスクール関連についての公開
 - ・ フロンティアスクール関連のページには、研修計画・指導案・実践記録・資料等を掲載
 - ・ 定期的に更新 アドレス <http://www.tym.ed.jp/sc141>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 1 5 年度からの新規校 1 4 年度からの継続校
- 【学校規模】 6 学級以下 7 ～ 1 2 学級
 1 3 ～ 1 8 学級 1 9 ～ 2 4 学級
2 5 学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 一部教科担任制 T・T による指導
その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
生活 音楽 図画工作 家庭
体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無